■公募制自己推薦（AO 型）　出題意図（科目別アドバイス）■

文学部　日本文学科

«筆記試験»

この試験科目は、辞書の持ち込みを許可している点が大きな特色です。辞書には、古文単語の意味だけでなく文法事項の説明もあります。巻末に、活用表・地図・装束図などが掲載されている場合もあります。ということは、本学の２月・３月の入学試験と違って、単語や文法の知識を問うことを主眼とはしません。一般的な受験勉強を積み重ねてきたのとは異なる、別の底力を試す試験です。緻密な想像力と鋭敏な感受性を発揮し、出題された場面の全体と各部分（表現）とを有機的に関連させて把握できるかどうかが試されます。付け焼刃の受験勉強で対応できるようなものではなく、日常的に本に親しんできたのかが問われます。

文学部　中国文学科

«志望理由書»

中国文学科への志向性を確認します。中国への関心・探究心をもったきっかけや、主体的に取り組んでいる学びについて述べてください。自身が興味関心を持つ作品や作家（詩人）、文化等を掲出し、どの部分にどのように関心を持っているのかを述べられるとよいでしょう。具体的には、中国文学科を志望するに当たっては、学校の授業で学んだ漢詩・漢文や自身の生活の中で触れた中国の様々な文化等きっかけがあると思います。そこから自分の関心のあるものを様々な図書等により調べ、その内容を自分が面白い、学びたいと思った理由等も含めて盛り込んでください。その上で、これら関心のあることから中国文学科における学びにどのようにつなげていきたいかも述べてください。

«活動レポート»

主体性をもって他者と協働して学ぶ態度を確認します。これまで自身が主体的に取り組んできたことを、その時に感じたことや、共に活動した友人・先生等との関係性も含め、具体的に述べられるとよいでしょう。

«授業の受講とレポート作成»

高校国語の漢文に相当する授業を受けてレポートを作成する選考です。授業内容を把握した上で、自分なりの考えをまとめる力を確認します。事前準備としては、授業等をしっかり聞き、ノートにまとめる習慣をつけておくと良いでしょう。あわせて、短時間で自分の考えを手書きの文書にまとめる練習もしておくと良いでしょう。

«面接試験»

第１次選考で提出された志望理由書と活動レポートに基づいて質問します。志望理由書をふまえて中国文学科への理解や志向性・意欲を確認します。また、自身の関心あるものについての具体的な知識や考えを確認していきますので、志望理由書に記載した作品等についてはしっかり調べ、自分なりの考えをまとめておくと良いでしょう。また活動レポートに基づく質問もなされますので、記載したことについて答えられるよう、内容を整理しておいてください。その上で、入学後どのように学んでいきたいか、大学卒業後にどんなことをしていきたいか、という点についても質問されますので、現段階での自分の考えをまとめておくと良いでしょう。

この他、全体として中国文学科の情報に関しては大学ホームページや入学案内などを参照してください。また、オープンキャンパスでは中国文学科の教員が個別相談や入試説明会、模擬授業を行います。また、現在中国文学科で学ぶ学生も相談に乗りますので、参考になる情報が得られると思います。

文学部　史学科

«小論文試験»

出題は英文、漢文、古文の文章題から１つを選択し、与えられた課題について小論文を作成します。古文は２題出されるのが通例です。出題文の内容を 400 字前後で要約し、自分の見解や意見を 400 字前後で述べます。文章を要約するにはまずその文章を正確に理解することが求められます。それには英文、漢文、古文の基本的な読解力を身につけておかなければいけないことはいうまでもありません。しかしそればかりではなく、その理解に基づいて自己の見解を論理的・客観的に述べることも大切です。このような能力は『世界史探求』『日本史探求』『地理探求』といった科目の高等学校での学習に際して強い関心を持つことにより獲得できます。しかし高校の授業でそれらを漫然と聞いているだけでは問題です。そうではなくそれらを主体的に学ぼうという気持ちを持っていることこそ、自分の言葉で魅力ある見解を述べることができるポイントです。また現代の国語」「言語文化（古文・漢文を含む)」「古典探究」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」およびそれに相当する教科の基本を理解しておくことも重要なことです。また出願にあたって提出したレポートについても 200 字程度で説明を求めます。

文学部　哲学科

«小論文試験»

課題図書の内容をふまえた論述問題です。答案に記述する文字数は１０００文字程度、試験時間は９０分の小論文試験です。提示されている課題が「いかなる問い」を扱ったものであるかを正確に把握しているか、哲学・倫理学および美学・芸術学の学問分野に対する志向性を持っているかを見ます。

神道文化学部　神道文化学科

«授業の受講とレポート作成»

出題文では、リポートに執筆すべき項目として、授業内容の振り返りと、具体的な事例をまじえながら自分の考えを述べることの 2 つを提示している。授業内容の振り返りに関しては、授業を受けて理解した事柄を、重要な語句を拾い上げながら文章にまとめる力を評価の対象としている。自分の考えを述べることに関しては、授業内容を自分に身近な経験や知識と関連つけながら、わかりやすく論理的に思考を表現する力を評価の対象としている。

法学部　法律学科（法律専攻）

«ALT 型レポート»

本レポートは、国際的にも問題性が指摘され続けている現代日本社会におけるジェンダー不平等のうち、政治部門、特に国会における女性議員の過少の問題を素材として、①関連する文献を収集・読解・整理するリテラシー能力と、②①を通じて、女性国会議員の過少が生ずる制度的・政治文化的要因を読み取り、解決策としてのクオータ制の意義と導入の是非を理論的に説明する能力を測ることをその趣旨としている。

法学部　法律学科（法律専門職専攻）

«小論文»

本「小論文」試験は、法学部アドミッション・ポリシーにおける入学者選考の観点のうち、「思考力・判断力・表現力」に関するもの、すなわち、「(AP2) 社会的な事象に対して問題意識を持ち、情報を収集・整理・分析し、論理的に考え、自分の考えを表現するための基礎的な力を持つ者〈思考力・判断力・表現力〉」を選考するとの観点を基本とし、また、法律専門職専攻が法曹（裁判官・検察官・弁護士）や公務員など、法律の専門的知識を活かす職業に就くことを目指す学生を受け入れる専攻であることを踏まえ、とくに情報を整理・分析する基礎的な力や論理的思考力、意見を一定の形式にしたがって文章で表現するための基礎的な力に留意して判定するための入学志願者選考方法である。

大問１は、とくに、入学志願者の、情報を整理・分析する能力や論理的思考力を評価・判定するため、判例を素材に、それを精確に読む基礎的な読解力や、情報の整理・分析能力、論理的思考力を問う小問を出題した。具体的には、会話文を手掛かりにして最判令和６年６月 21 日民集 78 巻３号 315 頁の一部を読み、情報を整理・分析させたうえで、とくに問１・問３・問４では入学志願者の論理的思考力を、また、問２・問５では入学志願者の読解力を測る問題を出題した。

大問２は、とくに、入学志願者の、思考・判断の過程や結果を表現する能力を評価・判定するため、800 字程度の論述に取り組む問題を出題した。具体的には、あらかじめオンライン授業動画を視聴し、そこで、法学において求められる論述の基本的な形式について学習してきたことを前提とし、問題文中で論述の手掛かりとなる相対立する他者の見解（学説）を紹介したうえで、監禁罪の成否につき自らの法的意見表明に取り組む記述問題を出題した。

法学部　法律学科（政治専攻）

«ALT 型レポート»

本レポートは、国際的にも問題性が指摘され続けている現代日本社会におけるジェンダー不平等のうち、政治部門、特に国会における女性議員の過少の問題を素材として、①関連する文献を収集・読解・整理するリテラシー能力と、②①を通じて、女性国会議員の過少が生ずる制度的・政治文化的要因を読み取り、解決策としてのクオータ制の意義と導入の是非を理論的に説明する能力を測ることをその趣旨としている。

経済学部　経済学科・経営学科

«総合問題試験»

総合問題試験は、与えられた文章を論理的に読み解く力、図表や統計データを論理的に読解・分析する力、教科書に準拠した基礎的経済理論の理解を問うことを目的としています。これに加えて、昨今の経済的トピック（例：財政赤字、金融政策、格差問題など）への短文記述を通じて、時事に関する理解と、論理的に意見を述べる能力を評価します。これらを通じて、本学のアドミッション・ポリシーにある「課題発見・多角的思考・解決志向性」を備え、現代社会に主体的に関与できる学生を選抜する狙いがあります。

人間開発学部　初等教育学科・健康体育学科・子ども支援学科

«小論文試験»

本出題は、体育（教育）に使用されている笛を取り上げ、その是非について考えさせるためのものである。問1では、本文の内容を的確に読み取り、分かりやすく説明する能力をみる。問2では、「体育の授業に笛を使用すること」の賛否について、自身の考えを論理的に説明する能力をみる。